

原文：Lack of adverse effects in subchronic and chronic toxicity/carcinogenicity studies on the glyphosate-resistant genetically modified maize NK603 in Wistar Han RCC rats
<https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs00204-019-02400-1> (Abstract)
(2019年3月 バイテク情報普及会 訳)

Wistar Han RCC ラットにおけるグリホサート耐性遺伝子組換えトウモロコシ NK603 系統を用いた亜慢性および慢性毒性/発がん性試験において、悪影響は認められない

要約

2012年に、除草剤ラウンドアップおよびグリホサート耐性遺伝子組換え(GM)トウモロコシ NK603の長期毒性に関し、論争的となる研究結果が発表された。ECが資金を提供するG-TwYST研究コンソーシアムは、NK603トウモロコシの亜慢性および慢性毒性並びに発がん性の有無を調べるため、化学物質の試験に関するOECDガイドラインおよび実験動物における食品・飼料全体の安全性試験に関するEFSA(欧州食品安全機関)の勧告を考慮し、1件はNK603トウモロコシ配合率が11%および33%、もう1件は配合率が最大50%である計2件の90日間給餌試験と、配合率が11%および33%である2年間給餌試験を実施した。この3件の試験では、栽培期間中にラウンドアップ処理をしなかったNK603トウモロコシ、1回処理したNK603トウモロコシ、従来種トウモロコシを供試した。被験群と対照群との間に認められた差については、これまでの研究における従来種トウモロコシの変動範囲と比較することにより同等性を評価した。有意な差が認められた場合には、影響が用量依存的であるかどうかや、組織病理学的所見をはじめとする関連パラメータの変化を伴っているかどうかを評価した。その結果、ラウンドアップを栽培に用いたかどうかに関係なく、最長2年間にわたってNK603トウモロコシを給餌しても、悪影響は認められなかった。亜慢性試験および慢性毒性/発がん性複合試験の結果に基づいて、GM植物リスク評価における長期給餌試験の科学的根拠と付加価値に対する勧告について記載する。

この公開論文は <https://doi.org/10.1007/s00204-019-02400-1> で入手可能である。